

部活動地域移行シンポジウム開催結果

開催日時：令和6年8月22日(木) 18時30分～20時00分

開催場所：教育支援センター研修室

参加者数：29名

テーマ：部活動は学校がやるべき？

1 パネルディスカッションの意見概要

八重樫 通 氏（つくば市立谷田部東中学校 前校長）
● 私が受益者負担で部活動改革を始めようとした時、行政からも他の校長からも理解は得られなかった。実践を通してその必要性・可能性を証明するしかないと考えた。昔は、部活動で学校を立て直すような考え方があったが、今はそういう時代ではない。 ● 部活動改革は、社会構造の改革もしていけないと思っている。 ● 部活動は「学校教育の一環」というあいまいな位置づけであり、校長には部活動をやらないという選択肢もある。しかし、それでは子供たちを置き去りにすることになる。 ● （なぜ先生になったのかという問いについて）様々な職業の中で、未来を創ることができる仕事であると思ったからである。今もそう思っている。 ● 全国大会を8月に開催するタイムスケジュール等から多くの中学3年生が部活動を6月に引退せざるを得ないのはおかしい。本当に中学生にそのような全国大会が必要なのか。私の学校では地域移行に取り組む中で、希望する生徒が年度末まで活動できる環境を整えてきた。現在は種目によって全国大会を廃止する動きも出てきている。
妹尾 昌俊 氏（一般社団法人ライフ＆ワーク代表理事）
● 私も中学生・高校生の保護者である。 ● そもそも学校は何をすることか、先生がやることは何かを考える必要がある。 ● 部活動で頑張るというよりは、授業やクラス運営で子どもを救うのが本来業務である。 ● 昔と比べて、教員の仕事の質が変わってきている。 ● 独自の調査では、中学校、高校の教員の約4割が読書をしないと回答。読書だけが勉強ではないが、自身の学びの時間がとれていないという現状がわかる。
保護者代表
● 教職課程で部活動の指導について教わることはないのか。 ● 教員になった理由を聞いてみたい。 ● 部活動は本当に無償なのか、お金が出るならやってもらえるものなのか。 ● 教員は本当に忙しいのか。
シンポジウム参加者（抽選により決定）
● 部活動の評価について。保護者の間では、部活動を3年間続けたら1点、部長やキャプテンなら、もう1点という話を聞く。そのため、3年間続けたほうがよいと保護者は、子どもに伝えてしまう。 ● 他学年とのつながりが、部活動の魅力である。 ● 学校で活動するにしても、教員が指導をしなくてもよいのではないかと思う。

- 部活動はもちろん給食なども教員が指導しない国が多い。
- 調査書の記入については、学校外の活動も記入を教員にお願いすることができると聞いている。
- 生徒は、先生とやりたいという思いがあるのもわかっている。

2 グループ討議の意見概要

- 部活動指導員と部活動指導補助員（外部指導者）の違いがわからない。
- 教員がやれないのは、結局のところ無償となっているからではないのか。
- 無償になっているということは、国は部活動を仕事として認めていないということなのではないか。
- 地域移行で様々なことに取り組めるようになるとよい。今は、中学生になったら部活動に参加するのが当たり前となっている。例えば、ピアノ教室などでは、中学生になると部活動にいつてしまうという現状がある。
- 今の中学生は忙しい。学校で部活動に参加して、その後に塾で勉強するといった生活を送っている。
- 調査書について、事実はどうなのか知りたいところである。
- 部活動を辞めない方がよいということには、その後の中学校生活の友達との関係性とか、そういった部分で言っている方も多いと思う。
- 各国の教員の業務範囲と比較すると、日本の教員と生徒は距離が近すぎるように思う。それを嫌がる先生が増えてきているのではないのか。
- （生徒は教員と部活動をやりたいということに対して）子ども目線で考える、子どもの意見を聞くことは大切であるが、注意すべきところもあると思う。
- 子どもがいたばし地域クラブに参加させてもらっているが、学校では経験できないことを経験させてもらっており、そのような形も良いという印象を持つことができた。